

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【土呂中】

| ⑥ 次年度への課題と改善策 | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 教科に少し差があったものの、全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に支援が必要である。個別に蓄積されたデータをどの教科でも活かせる対応の工夫を検討していきたい。また、次年度の改善策としては、特に数学で生徒同士が自らの考えを話し合う学びを全学年で重点的に取り組んでいく。 |
| 思考・判断・表現 | 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合がどの学年も85%以上であった。来年度は引き続き、対話的で深い学びに向けて授業改善に取り組み、肯定的な回答の割合を継続していく。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどの学年も約90%以上を維持する。来年度は、自校のアンケートで「自分で時間を決めたり計ったりして勉強する」という質問に約20%否定回答だったので、学校で学んだことを家庭学習にもつなげる手立てを講じていく。 |

| ① 目標・策 | | |
|---------------|---|---|
| | 目標 | 策 |
| 知識・技能 | R5年度全国学力・学習状況調査の数学の「知識・技能」においてR4の自校結果より向上させる。 | ⇒ テスト前に朝の数学の学習「朝数」を実施して、基本的な計算等の反復・習熟を行う。 |
| 思考・判断・表現 | R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。 | ⇒ 生徒が課題等に取り組む際、評価の観点を示し、生徒が考えたプロセスに対するコメントを付記して、評価する。「ミライシード」や「Teams」など活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 学校課題である「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、本校で行うアクティブ・ラーニング自己評価シートの主体力の質問項目において肯定的な回答の割合を70%以上にする。 | ⇒ 生徒の学力や学びに向かう態度を適切に評価するために、ルーブリック評価を活用し、生徒の「自己評価」「相互評価」などを指導する。 |

| ⑤ 目標・策の達成状況 | | 評価(※) |
|---------------|---|-------|
| 知識・技能 | R5年度さいたま市学習状況調査の数学の「知識・技能」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して-0.4ptであった。テスト前の朝学習は実施し定着したが、目標値にあと一步届かなかった。しかし朝学習は今後も継続していきたい。 | C |
| 思考・判断・表現 | R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して+1.9ptであった。「Teams」を活用した、教師と生徒又は生徒同士の思考の共有化を図ることは継続することができた。 | B |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生徒の学力や学びに向かう態度を適切に評価するために、ルーブリック評価を活用し、生徒の「自己評価」「相互評価」などを指導できた。学校課題である「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、本校で行うアクティブ・ラーニング自己評価シートの主体力の質問項目において肯定的な回答の割合が80%以上であった。 | A |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

| ④ さいたま市学習状況調査結果・分析 | |
|----------------------------------|---|
| *令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。 | |
| 中1 | 「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語の数値が大きく向上した。国語の言葉の特徴や使い方に関する事項と書くことで大きな成果が見られた。これからも系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を向上していけるよう授業改善に努めていく。 |
| 中2 | 「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査とR5年度を比較すると、どの教科も学年によって差があった。自分の考えを相手に伝える指導を積み重ねていく必要があると考える。今後も考え方を言葉で説明する活動に重きを置いていく。複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動や、異なる考え方をもちた人と協議して解決策を見出す活動に取り組む、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。 |
| 中3 | 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は94%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は89%であった。どちらもさいたま市よりも高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。 |

| ② 全国学力・学習状況調査結果・分析 | |
|--------------------|--|
| 知識・技能 | R4年度全国学力・学習状況調査の数学の「知識・技能」とR5年度の結果を比較すると、9ポイント向上しおおきな成果がみられた。 |
| 思考・判断・表現 | R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語の「思考・判断・表現」において、13ポイント向上した。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブ・ラーニングに対する意識を、学校課題を通して、教職員で共有している。 |

| ③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後) | | |
|----------------------------|---|--|
| | 目標 | 策 |
| 知識・技能 | R5年度全国学力・学習状況調査の数学の「知識・技能」においてR4の自校結果より向上させる。 | ⇒ 変更なし |
| 思考・判断・表現 | R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。 | ⇒ 変更なし |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 学校課題である「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、本校で行うアクティブ・ラーニング自己評価シートの主体力の質問項目において肯定的な回答の割合を65%以上にする。 | ⇒ 生徒の学力や学びに向かう態度を適切に評価するために、ルーブリック評価を活用し、生徒の「自己評価」「相互評価」などを指導する。 |